

令和7年度 東京都立第三商業高等学校経営報告（定時制）

1 令和7年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

1 学校運営

- ・企画調整会議や職員会議などの校内会議を通して、全教職員が課題を共有し、課題解決に向けた協力体制を強化し、組織的に学校運営に取り組んだ。
- ・若手教職員等の指導力向上を図るために、OJT診断基準を活用したOJTの推進に取り組み、学校全体で組織的に若手を支援体制し、個人の授業力や学校としての教育力及び組織力の向上を図った。
- ・ライフワーク・バランスの推進に努め、執務ガイドラインの活用や各分掌における仕事内容の精選を行い、分掌組織のマネジメントサイクル（PDCA）への取り組みを通して、課題解決に向けた効率的な校務運営を行った。

2 学習指導

- ・「わかる授業」の実践を促進し、基礎・基本の充実と主体的学習態度の育成に取り組み社会生活に必要な知識や技術を習得させるとともに、ビジネスに関する基礎的・基本的な資格取得の充実を図るよう取り組んだ。また、学習意欲を高めるための基本レベルの資格取得や一般教養試験への対応が十分に行えた。
- ・一人一台端末を活用した授業に取り組み、生徒の学力向上に努めた。

3 生活指導

- ・基本的生活習慣の確立のため全教職員による組織的な生活指導体制の下、生徒指導に取り組んだ。家庭との連携を強化し、きめ細かい指導により、生徒に自覚と責任を持たせるよう個に対応した指導を実施した。
- ・生活指導統一基準に基づく指導推進のため挨拶の励行と、家庭と連携した無断欠席や遅刻に対する指導体制を構築し、授業規律の確立と共に学校生活の安全・安定化に取り組んだ。
- ・ビジネスマナーや学校で学んだ知識や技術の定着やビジネス社会に通用する実践的な資質や能力の育成を図るために、家庭での生活について配慮を行った。

4 進路指導

- ・4年間を見通し、1年次より自らの生き方のあり方を考えさせるとともに、生徒意識調査や職業適性検査、進路先の調査、資格取得等の計画的・組織的な進路指導を通して進路保証を図る進路指導マネジメントシステムの上に指導を行なった。
- ・就職希望者へ指導と並行して進学希望者に対する進路指導を学校全体で取り組んだことで、希望の実現を後押しすることができた。

5 特別活動・部活動

- ・年間ホームルーム指導計画の策定と改善を予定通り実施することが出来た。
- ・生徒会等を活性化させ自主自立の学校行事や特別活動を実施することができ生徒の成功体験に繋がった。

6 安全・健康指導

- ・日常的な生徒観察による生徒への課題対応のため、学校経営支援センターやYSWとの連携を進めることができた。
- ・関係機関や地域など外部と連携した防災教育を実施した。
- ・健康で安全な学校環境を確立するため、毎日の生徒への健康指導(観察)を実施した。
- ・給食提供時において食生活のマナーや食事を通じたコミュニケーション能力等人間関係の能力形成に努めた。

7 広報・募集活動

- ・計画的な広報・募集活動として近隣住民、中学生、保護者等にPRし、本校で学びたいと希望する生徒を募集するとともに、関係機関との連携を深めた。
- ・授業公開を実施することが出来た。
- ・生徒募集として全教員が墨東地域の中学校や夜間中学校を訪問して募集を行った。

8 図書・視聴覚指導

- ・読書習慣の定着に取り組むことや、生涯学習につながる活動を実施することが出来た。

(2) 重点目標への取組と自己評価

① 教育課程の改善と学校運営

- ・学校の特色や生徒のニーズを明確に反映できる新教育課程編成の調査研究に努めアップデートを行った。
- ・学校運営連絡協議会委員との連携を図り意見交換を意欲的に行った結果、諸問題に対応できる体制を整えた。
- ・体罰及び不適切な指導の禁止について教職員に研修等を通して徹底を図った。
- ・中学校段階の学習内容の学び直しにより基礎的・基本的な学力の確実な定着を図った。
- ・教科「人間と社会」を活性化させるために外部講師を積極的に招き、体験的な学習を実施した。

② 学習指導

- ・主体性を持って多様な人々と協議して課題を発見し、解決策を見出していく「アクティブ・ラーニング」の視点にたった学習や生徒同士の教えあいや討議等さまざまな授業形態を工夫した。
- ・生徒の実態やニーズに対応した学習到達目標や1時間ごとの授業のねらいを明確にし、習熟度別授業や少人数授業を通して学習指導を通して基礎学力や体力の定着を図った。
- ・特別な支援が必要な生徒に対して、状況に応じ組織として対応するため、YSW から意見をもらうなど、基礎学力の定着を把握しながら個別的な指導に努めた。
- ・期末考査後の授業を充実させるために、補習週間及び個人面談週間を設定し実施した。
- ・号令とチャイムスタート、私語・飲食等の禁止、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁等により授業規律を生徒も意識するようになり、規範意識を高めることができた。
- ・自己を確立しつつ他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と協力・協働しながら問題を解決する態度を育むために、授業など日々の指導を工夫した。

③ 生活指導

- ・全教職員で組織的に、生徒の基本的な生活習慣やマナーを確立させる指導に努め、「挨拶」「身だしなみ」「時間を守る(遅刻、無断欠席)」「話を聞く態度」「清掃」について学校全体の生活指導として定着しつつある。
- ・グループエンカウンターを活用及び家庭との連携を活性化してことで、中途退学者は2名であり、ほぼ全員の進級・卒業となっている。
- ・問題行動をなくすため、生徒一人一人に対応したきめ細かい生活指導を家庭と連携しながら実施した。YSW など外部専門家の助言を受けるなど、課題解決に努めた。また、巡回指導など禁煙指導を徹底し、生活習慣の改善を図り健全育成を推進した。
- ・教育活動の予定や状況をホームページや学校通信等さまざまな伝達手段等で案内するとともに、保護者とも密に連絡を取るなど、連携しながら生活指導の充実を図った。
- ・ホームルームでの指導やセーフティ教室等を活用し、安全教育の推進を図り、登下校時の通学マナーや安全に行動できる資質や能力を習得させるよう努めた。
- ・特別支援教育コーディネーターを連絡調整役として、管理職、生活指導主任、各HR担任、スクールカウンセラー、YSW 等からなる教育相談委員会を組織し、特別な支援や配慮が必要な生徒についての情報交換と対応のための協議を毎学期行った。

④ 進路指導

- ・1年次より卒業までの4年間を見据えた進路指導を実施するためにキャリア教育全体計画を確立し、ハローワーク及び進路指導部・担任・各教科が連携して全教職員で進路指導に取り組んだ。
- ・ジョブサポーター等、外部専門家との連携を行うことが出来た。また、卒業生に高校生活や進路選択、実際の進路活動を紹介してもらう懇談会を実施し、生徒自身が卒業後に向けてキャリアについて考えるための進路学習を行った。
- ・教育課程の特色を活かして計画的かつ組織的な進路指導に取り組むために、進路指導計画に基づく組織的・計画的な資格取得の促進や、資格を活用した進路指導及びキャリアカウンセリング等を充実し、生徒一人一人の進路実現を図るよう促した。

⑤ 特別活動

- ・校外活動について精査し、生徒会を中心として生徒の主体的な学校行事運営を支援しながら

ら、学校行事等、特別活動の充実を図り、生徒一人一人の存在感と達成感、学校への帰属意識、クラスの連帯感を高めた。

- ・部活動加入率としては、活性化の傾向にあった。

⑥ 安全・健康指導

- ・薬物乱用防止教室やセーフティ教室などの実施ができた。
- ・学校経営支援センターや YSW と連携して相談機能の充実を図ることができた。また、課題のある生徒への対応や教員への校内研修を実施することができた。
- ・生徒の課題に対して、家庭等と連携し問題行動に対する継続指導を実施した。
- ・給食を中心として食生活のマナーを通じた人間関係の形成能力を身に付けさせるなど食育の導を行った。

⑦ 広報・募集活動

- ・授業公開を行い、学校行事等本校の教育活動の様子をホームページ等で案内することが出来た。

⑧ 図書・視聴覚教育

- ・一部教科で図書館を使って授業を行うなど、工夫して取り組んだため、図書貸し出し数は、月ごとに見ると昨年度並みであった。
- ・ICTの利用など、視聴覚教材を使った学習指導など工夫して指導を実施した。

⑨ 研究・研修その他

- ・生徒による授業評価の集計分析方法を工夫し、授業改善を図ることができた。

○数値目標の達成度（目標値 → 本年度結果）

- ①学校運営...体罰等の不適切な指導： 0（無し） → 0（無し） 達成

- ②学習指導...簿記検定3級以上取得者：15名

文書デザイン他情報処理系検定3級以上取得者：1名

ワープロ検定3級以上取得者：6名

- ③生活指導...転・退学率： 10%以内 → 7,6%（2名）

学校通信発行： 10回 → 12号まで発行

- ④進路指導...ハローワーク（ジョブサポーター）との連携：10回 → 電話対応中心

卒業生の進路決定率：100%

- ⑤特別活動・部活動...学校行事出席率： 80%

部活動加入率： 119%(複数加入生徒のため)

部活動大会参加： 0回

- ⑥安全・健康指導...安全・健康に関する講演指導：4回実施

- ⑦広報・募集活動...中学校訪問：75校

授業公開；年間3回実施した

体験入学：0名参加

随時学校見学：2組

入学選抜応募倍率(一次・二次計)：0.1倍

- ⑧図書・視聴覚教育...図書不読率： 0%

- ⑨研究・研修その他...研究授業・研修：3回

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 学校運営

- ・グランドデザインを活用し、実効性を持った教育活動全般の活性化を図る。
- ・成人年齢引き下げに対応するための各種取組（セーフティ教室他との複合的指導）
- ・外部講師や指導資料を活用し、有権者としての自覚と責任ある態度を涵養する。

(2) 学習指導

- ・学習指導要領をふまえた指導計画の改善、及び継続して基礎基本の定着を図る。
- ・観点別評価を通じた指導改善を行ない生徒一人一人の学力向上を図る。
- ・授業規律の確立
- ・号令、チャイムスタートの実施、「わかる授業」により学ぶ楽しさを実感させる。
- ・私語、飲食の禁止、携帯電話の使用厳禁等により規範意識を高める。

- ・授業以外の学習指導（補習・補講や宿題等）について工夫し学力を向上させる。
- ・一人一台端末を活用した授業に更に積極的に取り組み充実した授業を確立させる。

（3）生活指導

① 基本的な生活習慣の確立

- ・家庭と連携した無断欠席防止及び遅刻指導の実施により、基本的な生活習慣の改善を図る。
- ・喫煙や反社会的行為の禁止を徹底し、生活習慣の改善を図り健全育成を推進する。

② 発達障害等課題のある生徒への指導体制の確立

- ・生徒情報を全教職員で共有し、一人一人に対応したきめ細かい生活指導を実施する。
- ・家庭やスクールカウンセラーと連携し、生徒が持つ課題への事前対応に取り組む。

（4）進路指導

① キャリア教育全体計画の確立

- ・1年次より卒業までの4年間を見据えた全体計画に基づいた進路指導を実施する。
- ・教育課程の特色を活かし、基本的な資格取得から資格取得を推進する。

② 就労経験や卒業生による進路懇談会による勤労観の育成

- ・ハローワーク木場と連携し、昼間の時間帯でのアルバイトを含め就労を奨励する。
- ・就労経験や卒業生の体験を聞くことなど、社会性の向上や人間関係能力の育成を図る。

（5）特別活動・部活動

① 特別活動の充実

- ・生徒会、委員会、部活動等主体的な活動を促し、充実した学校生活を推進する。
- ・部活動加入率を向上させる。

② 学校行事の充実

- ・生徒会を中心とした生徒による主体的な学校行事の運営を支援する。
- ・校外活動について精査し、生徒が積極的に参加したくなる学校行事を実施する。

（6）安全・健康指導

① 地域関係機関（警察・消防等）との連携

- ・深川警察署と連携して薬物乱用防止教室等の内容を精選・改善し、指導の充実を図る。
- ・深川消防署と連携して避難訓練等の内容を精選・改善し、指導の充実を図る。
- ・自転車乗車時のヘルメット着用等の安全講習会（ストレートスクエアード）実施で無事故無違反を徹底する。

② 食育指導の充実

- ・給食時のマナー指導や食育講話等を通して、健全な食習慣の充実を図る。
- ・不規則な食生活や生徒の栄養・健康状態を観察し、「食」への意識の向上を図る。

（7）広報・募集活動

① 広報活動の推進

- ・近隣中学校等訪問・授業公開を実施し、三商定時制への理解向上を図る。
- ・学校 Web ページの随時更新、学校掲示板の活用（定時制ニュース等）を推進する。

② 地域連携の拡充

- ・授業公開や公民館展示他、セーフティ教室・薬物乱用防止教室等を地域へ公開する。
- ・学校運営連絡協議会を活用して本校教育活動の様子を地域に広報する。

（8）図書・視聴覚指導

① 図書館利用の促進

- ・各教科と連携して図書館の利用及び読書週間の定着を促進する。
- ・推薦図書などを示し、読書月間等における読書を奨励し、図書不読率を低下させる。

② ICT機器の活用

- ・ビデオ教材等、ICT機器を日常的に活用し、視聴覚指導を充実させる。

（9）その他

① 中途退学者の防止

- ・授業改善や家庭との連携等の指導により、中途退学者0名を目指した教育活動を実施する。